

NEW SOPHIA

ニュー
ソフィア

2002.DEC.
福岡歯科学園広報誌
Vol.10 No.4



福岡歯科大学創立30周年記念式典(10月12日)

CONTENTS

創立30周年記念行事	2~3	FROM PARENTS / 父兄からのメッセージ	8
「サンシャインプラザ」建設に着工	4	FROM THE ALUMNI ASSOCIATION / 同窓会だより	9
福岡歯科大学学会総会	5	HI FROM ALUMNI CLINIC / クリニックからこんにちは	10
平成14年度福岡歯科大学公開講座	6	第28回「田の歯科祭」	11
WHAT'S NEW IN THE LABORATORIES / 研究室最前線	7	平成15年度入試日程	12

福岡歯科大学

記念式典を盛大に挙行

学校法人福岡歯科学園および福岡歯科大学は、昭和47年7月27日、文部大臣から設置認可を受け、翌48年4月1日に開学した。開学までの道程も険しく、開学後においても幾度も難局に直面したが、全学打って一丸となり、大学の正常化に邁進した結果、名実ともに西日本唯一の私立歯科大学としての確固たる地位を築き上げた。

この30年の歩みを振り返り、先人の尽瘁に改めて感謝し、さらなる飛躍を祈念するため、福岡歯科大学創立30周年行事が行われた。記念行事のうち、創立30周年記念コンサート、記念式典、記念祝宴は、10月12日、ホテルニューオータニ博多を会場に開催され、全国津々浦々から大学関係者、歯科医師会、同窓生、教職員、在学生代表らが参加、盛大に挙行された。

また、永年勤続者表彰式は10月15日、福岡歯科大学講堂で行われた。



校歌を合唱する FDC GLEE CLUB



約650名が出席した式典

記念コンサート

午後3時に開演した記念コンサートは、梅田俊明氏を指揮者として迎え、九州交響楽団のフルオーケストラにより、ブラームス作曲の大学祝典序曲などが、次々に演奏され、華やかな雰囲気の中で創立30周年行事が開始された。



クラシック音楽を体感したコンサート



指揮者の梅田俊明氏

創立30周年



田中健藏理事長



平野建二常務理事



青野一哉学長



本田武司附属病院長

記念式典

記念式典は午後4時25分から開始された。式典の中で田中健藏理事長は、先達先人の御盡力に、敬意を表するとともに、「福岡歯科大学は、学生が意欲をもって勉学し、同窓生が誇れる母校を目指し、世界の歯科医学の発展、地域医療の向上への貢献を目指して、特色ある国際的に評価される歯科大学となるよう努力することを誓う」と述べ、式辞とした。

続いて、青野一哉学長は「第三者評価、相互評価を踏まえ、30周年を節目としてさらなる発展を目指して努力したい」と決意を表明した。

このあと、遠山敦子文部科学大臣（代理・御手洗 康文部科学審議官）、大沼 淳日本私立大学協会会長（代理・廣川利男副会長）、佐川寛典日本私立歯科大学協会会長らの来賓から祝辞が述べられた。

最後に、FDCグリークラブの35名による朗々とした校歌が会場に響きわたり、式典を大いに盛り上げた。



式典会場



田中理事長を囲んで



懇親の輪が広がる祝宴会場

記念祝宴

式典終了後、約800名が出席し記念祝宴が開かれた。田中理事長の挨拶に続き、山崎広太郎福岡市長、福田仁一九州歯科大学長からお祝いの言葉を頂戴した。この後、懇談に移り、またたく間に懇親の輪が会場中に広がった。宴もたけなわとなる中、宮口 厳福岡歯科大学同窓会長の閉会の辞により、お祝いの集いは盛会のうち午後7時、滞りなく幕を閉じた。

今回の記念事業の実施に当たり、福岡歯科大学同窓会（800万円及び彫刻を寄附）、福岡歯科大学父兄後援会（150万円及び講堂緞帳を寄附）等から多大のご支援、ご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

特別養護老人ホーム「サンシャイン プラザ」建設に着工



「サンシャイン プラザ」外観パース(北東より)

地域の保健・医療・福祉への貢献をさらに進めるため、新たに設置された社会福祉法人学会会の運営する特別養護老人ホーム「サンシャインプラザ」の建設がはじまった。「サンシャイン プラザ」は今年8月に開所した介護老人保健施設「サンシャインシティ」の東側に隣接して建設され、鉄筋コンクリート

3階建、延床面積6,797㎡で、来年8月に竣工、10月には開所する予定。開所すれば福岡歯科大学附属病院や「サンシャインシティ」等と連携し、本学園の目指す、保健・医療・福祉を一体的に提供する地域拠点モデル実現の一翼を担うこととなり、学内外から大きな期待が寄せられている。

事務局長に藤崎氏就任

10月1日付けで、藤崎 博近氏が事務局長に就任した。



<略歴>

昭和43年鹿児島大学卒業。文化庁、文部科学省、高知大学、広島大学、東京医科歯科大学等を経て、平成5年宮崎医科大学総務部長に就任。以後、国立夜須高原少年自然の家所長、高知医科大学事務局長等を歴任。鹿児島県出身。

<抱負>

高齢化社会に適合し、時代の先駆けを意識した教育・研究・診療体制のアシスタントとして、本学の発展のために微力ながら最善を尽くす所存ですのでよろしくお願ひ申し上げます。

新任助教授紹介



わたなべ たけし

渡辺 猛 助教授(社会歯科学分野)

<略歴>

新潟大学大学院歯学研究科修了。広島大学歯学部助手、本学助手・講師を経て本年9月助教授に就任。歯学博士。広島県出身。

<抱負>

学生の声を参考にして教育方法を工夫し、学生のやる気を引き出したいと考えています。社会に役立つ研究にも取り組みたいです。

第三者評価実地視察

7月に施行された「福岡歯科大学第三者評価委員会規則」に基づく初の同委員会実地視察が9月19日実施された。実地視察を行った委員は、中原 泉委員長(日本歯科大学長)ほか4名で、面談調査を始め、附属病院、解剖実習室、学術フロンティア研究センターなど学内の各所を視察し、講評を行った。



501講義室を視察する委員

相互評価実地視察

11月26日、大学基準協会の相互評価に係る実地視察が行われた。当日は同協会から井上芳郎氏(相互評価委員会委員、北海道大学副学長)ほか視察委員2名が本学を訪れ、面談調査の後、学内各所の視察を行い講評を行った。



402実習室の視察

OSCEトライアルを実施

9月26日、附属病院4階において平成14年度歯科医師臨床研修医26名を対象に、第1回OSCEトライアルが実施された。



課題として行われた「口腔内診査」の1コマ

OSCE(Objective Structured Clinical Examination:オスケー)＝歯学教育における臨床実習の充実を図るため、コアカリキュラムに基づいて学生に対する臨床実習前の評価を行う「共用試験」の一つ。臨床技能や歯科医師としての態度を評価する。

私立学校教育功労者に阿部興紀教授



平成14年度の福岡県私立学校教育功労者に阿部興紀教授(生化学分野)が選ばれ、11月22日福岡県庁において麻生渡県知事から表彰された。

第20回日本小児歯科学会九州地方会



11月2日、3日の2日間、福岡市中央区の福岡県歯科医師会館大ホールで第20回日本小児歯科学会九州地方会大会及び総会〔大会長:増田純一(福岡歯科大学成育小児歯科学分野同門)、顧問:本川渉(成育小児歯科学分野・教授)〕が開催された。同学会では、展示発表の他、教育講演「小児歯科でこれから大切なこと」〔講師:中田稔(九州大学大学院歯学研究科口腔保健推進学講座・教授)〕記念講演Ⅰ「21世紀の小児歯科医療」〔講師:小椋正(鹿児島大学歯学部・名誉教授)〕、同Ⅱ「痛くない小児歯科治療」〔講師:後藤譲治(長崎大学歯学部・名誉教授)〕、シンポジウム「小児歯科の理想と現状」のほか、パネル発表16題、コ・デンタルスタッフ講習会「これからの歯科衛生士」などが行われた。参加者は歯科医師261名、歯科衛生士71名で、大変盛会となった。

日本歯科放射線学会 第36回九州・第45回関西合同地方会

—平成14年度日本歯科放射線学会教育ワークショップ—

11月30日、福岡歯科大学501講義室で、日本歯科放射線学会第36回九州・第45回関西合同地方会〔大会長:湯浅賢治(福岡歯科大学画像診断学分野・教授)〕が開催され、一般口演18題、写真供覧5題が発表された。本学関係者の発表は次のとおり。

■一般口演

「イントラネットでの自己学習読影システムの開発」
(※香川豊宏、小川和久、瀬々良介、三輪邦弘、和田忠子、湯浅賢治)

「デジタルパノラマエックス線撮影におけるプレート遮光シートの考案」

(※坂口賢(福岡歯科大学4年生)、小川和久、市原隆洋、湯浅賢治)(※印は発表者)

■写真供覧

「舌下腺相対部に発生した腫瘍性病変の一例」

また、同学会の翌日、平成14年度日本歯科放射線学会教育ワークショップが開催され、多くの来場者でにぎわった。

第29回福岡歯科大学学会総会

第29回福岡歯科大学学会総会〔学会長・本田武司(口腔外科学分野・教授、附属病院長)〕が11月23日福岡県歯科医師会館大ホール(福岡市中央区)で行われた。内容は、一般口演23題、ポスター討論18題のほか、シンポジウム「インプラ

ントの診断・治療における病診連携」や山川烈教授(九州工業大学大学院生命体工学研究科)による特別講演「新しい情報処理技術と歯科医療の狭間で」が行われた。なおこの特別講演は公開講座として開催され、学内外から約220人が聴講した。



シンポジウムの様子

日中国交回復30周年記念特別講演会

～北京大学の張教授、曹教授が来学～

11月21日、福岡歯科大学学会の主催による日中国交回復30周年記念特別講演会として、北京大学口腔医学院の張震康教授(北京大学口腔医学院名誉院長、同口腔顎顔面外科、中華口腔

医学会会長)及び曹采方教授(北京大学口腔医学院歯周病科、中華口腔医学会常務理事)による特別講演が、福岡歯科大学501講義室で行われ、多数の教職員が聴講した。



講演する張教授
テーマ「中国における口腔医学教育の改革と発展」



講演する曹教授
テーマ「北京大学口腔医学院における口腔医学教育の改革と発展」

第27回献体者慰霊祭

第27回献体者慰霊祭が10月17日午後1時から博多区祇園町の普賢山萬行寺で1094霊位(うち新祭祀献体者数は38霊位)に対し執り行われた。

当日は、篤志献体申出者・養護施設関係者をはじめ、福岡歯科大学学生及び学内外の関係者596名が参列し、厳かに献体者の尊い御霊のご冥福を祈った。



青野学長による祭文

第27回実験動物慰霊祭

第27回実験動物慰霊祭が、9月26日午後5時からアニマルセンター玄関横の実験動物慰霊碑前で行われ、田中理事長、平野常務理事、青野福岡歯科大学長、岡部教授(アニマルセンター長)らを始めとする教職員116名が参列し、実験動物の諸霊に感謝し冥福を祈った。



祭主は飯盛神社

平成14年度福岡歯科大学公開講座

「長寿カム『噛む』」

福岡歯科大学が主催する一般市民を対象とした公開講座「長寿カム『噛む』」が、9月28日福岡市健康づくりセンター「あいれふ」(中央区舞鶴)で開催された。講義テーマは「噛むことの大切さー口とからだの関係ー」[講師: 柿木保明(国立療養所南福岡病院・歯科医長)]、及び「噛まなくなり、口から食べられなくなると」[講師: 塚本末廣(福岡歯科大学成長発達歯科学講座障害者歯科学分野・助教授)]の2コマで、一般市民等49名が熱心に聴講し、活発な質疑応答が交わされ好評であった。



塚本助教授による講義

福岡都市圏20大学連携公開講座

「市民と大学との未来づくり」を統一テーマとする平成14年度福岡都市圏20大学連携公開講座(全11コース38講義)が、11月13日から28日にかけて、福岡市庁舎、博多リバレイン、福岡市健康づくりセンター(あいれふ)等で開催された。福岡歯科大学は、11月22日にFコース「賢い健康管理: 病気の予防から治療まで」の中の1コマ「喫煙と歯周病」[講師: 埴岡隆(口腔保健学講座口腔健康科学分野・教授)]を担当し、48名の市民が聴講した。



「あいれふ」で行われた埴岡教授の講義

福岡医療短期大学公開講座

11月24日、福岡医療短期大学303教室において、福岡医療短期大学歯科衛生学科と同窓会「瑞樹会」の共催による公開講座が開催された。内容は、特別講演「カウンセリング入門-医療におけるカウンセリングマインド」[講師: 山田幸代(臨床心理士)]とシンポジウム「Professional Mechanical Tooth Cleaning を考察する-どこまでできる歯科衛生士-」で、歯科衛生学科の2年生や卒業生等約200名が出席した。



学位論文紹介

◇朝倉勉(乙第73号)

「根管拡大用Kファイルの切削効率に対する加熱温度の影響」

福岡市総合図書館と蔵書貸借

市民の専門書や学術書へのニーズの高まりに対応するため、福岡市総合図書館(早良区百道浜)は、福岡歯科大学を含む市内の5大学と連携し、10月から蔵書の相互貸借をスタートさせた。これにより福岡市総合図書館(本館、分館)の窓口で、本学情報図書館の専門書などの貸出ができ、福岡歯科大学の情報図書館窓口でも同様

の仕組みで市総合図書館の蔵書を借りることができるようになった。今回の連携は本学の他、九州大学、九州芸工大学、福岡工業大学、福岡女学院大学で、公共図書館と複数の大学図書館がネットワークを組むのは全国でも珍しいといわれており、市民や教職員・学生へのサービスの向上につながるものと期待を集めている。



本学情報図書館の貸出しカウンター

海外研修派遣

(*印は発表者)

所属	職名	氏名	研修課題	派遣先	派遣期間
冠橋義歯学分野・口腔インプラント学分野	教授 教授 助教授	佐藤 博信 松浦 正朗 城戸 寛史	インプラントの即時埋入および即時負荷に関する研究 ①第2回中日口腔インプラント会議にて講演及び研究打合せ (北京:首都医科大学附属北京口腔医院) ②上海第二医科大学附属第九人民医院にて研究打合せ(上海)	北京、上海(中国)	自:H14. 9. 4 至:H14. 9.10
機能構造学分野	助教授	佐藤 敦子	第17回形態科学シンポジウムにて口演発表のため (演題:Three-dimensional structure of apical vesicles of tuft cell of the rat submandibular gland. 発表者:*佐藤敦子、久永豊、長門俊一)	ティミショアラ(ルーマニア)	自:H14. 9. 9 至:H14. 9.17
冠橋義歯学分野	講師	松浦 尚志	1.ノースカロライナ大学にて「歯科インプラント周囲の骨石灰化におけるコラーゲン結合性低分子量プロテオグリカンの役割に係る研究討論」 2.第24回アメリカ骨代謝学会においてポスター発表 (演題「チタンインプラント材料上での骨芽細胞による石灰化過程における低分子量プロテオグリカンの遺伝子発現の変化」発表者:松浦尚志)	チャペルヒル、サンアントニオ(アメリカ)	自:H14. 9.14 至:H14. 9.25
矯正歯科学分野	講師	清末 清悟	平成14年度臨床研修歯科医海外研修者(6名)の引率のため及びロマリダ大学歯学部、南カリフォルニア大学歯学部の視察並びに現地デンタルオフィス関連施設の訪問視察のため	ロマリダ、ロサンゼルス(アメリカ)	自:H14. 9.20 至:H14.10. 1
成育小児歯科学分野	教授	本川 渉	第3回アジア小児歯科学会にてポスター発表のため (演題:The relationships between DMF and an amount of polypeptide secreted specifically in salivas of children during mixed dentition stage. 発表者:*本川純子、比嘉和、本川渉、石橋一成、阿部公生)	済州島(韓国)	自:H14. 10.21 至:H14. 10.26
成育小児歯科学分野	助教授	尾崎 正雄	1.第3回アジア小児歯科学会にて口頭発表のため (演題:The Study on Evaluation Method for the Dental Anxiety of the Infants by Using Miniature Dental Office. 発表者:*尾崎正雄、本川渉) 2.韓国全北大学歯学部にて小児歯科学教室:白秉周教授とカリエスリスクに関する共同研究打合せ	済州島、全州市(韓国)	自:H14.10.22 至:H14.10.26

口腔保健学講座 (Preventive and Public Health Dentistry)

2001年4月の大学の機構改革により、口腔健康科学分野、社会歯科学分野、医療統計学分野からなる口腔保健学講座が新たに誕生し、言語情報学分野、医療倫理学分野、医療心理学分野からなる医療人類学講座とともに社会医歯学部門を形成している。当講座の担当範囲は、予防歯科学、衛生・公衆衛生学、社会歯科学、健康科学、保健体育、情報処理などの多岐にわたっており、これらは研究や教育の面で活かされるものとする。教室員は、口腔健康科学の埴岡隆教授、福田英明助教授、筒井昭仁助教授、大内紘三講師、町田弘幸、劉中憲、晴佐久悟の3名の助手、そして医療統計学の金崎信夫助教授、社会歯科学の渡辺猛助教授となっている。このほかに、松尾忠行非常勤講師および大学院生の藤好未陶、研究補助員の林明美から構成されている。今、健康、QOLといったポジティブな社会的ニーズが顕在化してきており、これらへの対応として、多彩な知識、情報、考えなどが統合されなければならない時期にきている。社会に旅立つ学生諸氏に、これらの情報を伝えておくことは歯科医師教育として不可欠な内容と思われる。教育面では、社会と関わる中で健康の保持増進やQOLの向上、それに関わる予防歯科技術の習得、さらには今後早い周期で起こるであろう知識、技術の変遷に対して、それらを的確に捉え、雑然とした情報の中から

エビデンスに基づいた情報の選択等が行える歯科医を育てたい。研究についても、それぞれのオリジナルの部分を活かすとともに、それぞれの得意分野の周辺領域、あるいは境界域にあった内容についても口腔と全身の健康の接点を重視しながら、共同して意欲を持って取り組んでいきたい。"地域に開かれた大学"という言葉をよく耳にするが、教育機関である大学を対社会という視点で考えたとき、地域の歯科保健、あるいは医療、保健関係者に対する教育、さらには一般住民に対する教育、地域活動の支援なども大学の使命の一つと思われる。新たに始まった「歯の健康」を含む「健康日本21」の取り組みは、地方自治体、歯科医師会のプログラム策定を刺激しており、モデルプログラムづくりは研究の対象にもなっている。実際の健康支援活動から得られた情報は、学生教育に積極的に反映させたい。



前列右から2人目が埴岡教授

埴岡 隆(口腔健康科学) = 文
text: Takashi Hanioka

教授= 埴岡 隆(歯博)
大阪大学・昭和56年卒

助教授= 筒井 昭仁(歯博)
九州歯科大学・昭和49年卒

福田 英明
日本大学・昭和36年卒

金崎 信夫(理博)
九州大学大学院・昭和48年修了

渡辺 隆(歯博)
新潟大学大学院・昭和61年修了

講師= 大内 紘三(歯博)
水産大学・昭和39年卒

助手= 町田弘幸、劉中憲、晴佐久悟

非常勤講師= 6名

大学院生= 藤好未陶

研究テーマ=

1. 歯周病予防に関する疫学研究
2. 歯周環境・組織機能計測の応用に関する研究
3. 喫煙対策に関する研究
4. 歯肉溝滲出液の生化学検査の歯周保健への応用
5. オラルヘルスケア-製品機能の効果評価に関する研究
6. う蝕に関する疫学研究
7. 水生生物の食物連鎖に関する化学生態学的研究
8. フッ化物応用によるう蝕予防の研究
9. 地域歯科保健研究
10. 水道水フッ化物添加導入の研究
11. ヘルスプロモーション研究
12. 水環境汚染物質の水生生物への影響

医療人間学講座 (Medical Humanities)

医療人間学講座は、従来の哲学・倫理学、経済学、英語、ドイツ語の4講座が言語情報学、医療倫理学、医療心理学に統合・改編されたもので、現在、言語情報学分野に2名、医療倫理学分野に1名の専任が配されている。言語情報学分野の授業は大きく英語とドイツ語に分かれる。英語では、第1・2学年に、歯科医学との関連を考慮しての「歯科英語」を担当している。その目的を列挙すると、①歯牙を中心とした口腔について、②歯牙を中心とした口腔ケアについて、③良き歯科医師について、④歯科診療チームについて、それぞれの基礎知識を与えることである。これに加えて、5名の英語非常勤講師を中心とした「英語会話」の授業が行われているが、その内訳は、第1、2学年に「一般英語会話」、第3、4学年に「歯科診療英語会話」となっている。これは、国際化がますます進む社会において、職業活動としての歯科診療に必要な英語会話力を身につけることを目的とする。ドイツ語では、第1学年に、初歩的なドイツ語文理解のための文法事項習得を目標とする、一般言語教育としての「ドイツ語」を、第2学年に、医学に関する題材をテキストを使って、ドイツ語とドイツ文化の理解を深めて

いくための「医科ドイツ語」を担当している。

医療倫理学分野の教育目的は、社会人・文化人としての良識の養成と、医療従事者としての倫理観の涵養にある。この観点から教育、研究とも、医療社会における人間関係論と、クオリティ・オブ・ライフの価値論的な把握に重点をおいている。生命と実存の哲学、「いのち」と「こころ」に関しての、現象を通して本質へ迫る試みがその基盤にある。医療倫理学専任の担当科目は、第1学年が、選択の科目群「文化と社会」に属する「哲学」、10名の教員で班別分担する「行動科学セミナー」、コーディネーター兼講師を務め、学内外の講師を招いてオムニバス形式で行う「現代文明論」である。第2学年では、基礎倫理学としての「医療人間学Ⅰ(パーソナリティ論)」を講義する。これを引き継いで第3学年では、講師に医学者の参加を得て「医療倫理学」を受け持っている。この他、医療倫理学・医療心理学分野に関連する教科が、科目群「動機づけ教育」、「態度と行動」、「文化と社会」、「医療人間学」の中に開講されている。その多くは非常勤講師による選択科目であるが、一般教育としての人文・社会科学系のほぼ全領域に行き渡るよう設定されている。

水田 信(医療倫理学) = 文
text: Makoto Mizuta

助教授= 大藪 勉(歯博)
シドニー大学大学院・昭和52年修了

水田 信(文博)
九州大学大学院・昭和41年修了

講師= 大西 健三(文学修士)
九州大学大学院・昭和52年修了

非常勤講師= 25名

研究テーマ=

- ・日英語音声の比較研究
- ・英語教授法
- ・英語基本動詞の語義研究
- ・国際文化の比較研究
- ・ヘルダーリンの詩論とドイツ観念論
- ・キェルケゴールと現代の実存思想
- ・全人的健康観と医療倫理
- ・東洋思想と西洋思想の比較研究
- ・哲学教育の方法論



左から大藪助教授、水田助教授、大西講師

誠心誠意



勝俣 辰也=文
text: Tatsuya Katsumata

近年、科学の最先端においては、専門家にも理解しがたい問題が出てきているといわれている。たとえば薬物に関して言えば、どんどん異様に難しい組織になり、それら薬物の人体に及ぼすリスクがどのようなものなのか、又どの程度のものなのか、科学者にも予測不可能な世界に入っているといわれている。それに伴い、医療行為におけるインフォームド・コンセント、自己決定やリスクの負担等の言葉が出現している。このように科学中心の時代が終わり、歯科界も社会とのかかわりがより強くなると思われる。

私達歯科医は、「誠心誠意、患者さんの治療にあたる」とよく口にする。「誠心誠意」治療にあたるということは具体的にどういうことであろうか。患者の立場に立ち、患者の気持ちをよく酌み取り誠意を尽くそうとしても、正しい知識や技術を持っていなければそれは空回りになってしまう。それとも一つ、自分の技量を知らなければ最善を尽くすことは不可能だと思える。自分の持っている知識と技術をフルに活用して治療にあたるのはもちろんであり、その知識や技術を常に向上させる努力が必要である。そして自分の専門外や、未経験の症例に対しては専門医に紹介することも、誠心誠意治療にあたる、ということの一つだと思われる。

自分に知識が乏しく、技術が未熟だと自覚することは勇気が必要である。しかしそれを認め、向上心を持つことにより人間としても歯科医としても成長し、誠心誠意治療にあたれるようになることであろう。

そして最後に一つ、「歯科医としての知識は自分で得るものであって、先生が与えてくれるものではない。」ということをお忘れはならない。日々の生活の中で、工夫し習練を続けてみよう。それを少しずつでよいから着実に身につけていくことだ。その小さなことの積み重ねが歯科医師として実を結ぶのである。

「IT化」に思う



西原 義一=文
text: Yoshikazu Nishihara

今年、福岡歯科大学が開学30周年を迎えられました事、心よりお喜び申し上げます。

本学を卒業し早20数年が過ぎました。私が在学していた昭和50年代の福岡歯科大学は、旧住所表示（福岡市早良区田700番地と記憶していますが?）のように、田園地帯の中に在り周囲にあまり建物が無く、かなり離れた所からでも見える状況でした。現在は、マンション、大型店舗、ファミリーレストラン等が立ち並び、外環状線等の道路が整備され、福岡市営地下鉄が2年後に開通とのことです。時のたつ早さと大学周囲の変化に驚かされています。

近年、「IT」と言う言葉をよく見聞します。私がパソコンを使い始めたのは、卒業後研究室に入局した時でした。当時のパソコンは、市販のソフトは無く、BASIC等の言語を用い、数百行にも及ぶプログラムを何日も徹夜で入力し、保存には、音楽用のカセットテープを用いていたことが、懐かしく思い出されます。現在日常臨床においてパソコンは、患者管理、保険請求事務、口腔内写真、デジタルレントゲン等幅広く使用されるようになりました。また、カード式の保険証を発行している保険者もあると聞きます。将来、さらに便利なハード、ソフトが登場し、さらに有益な物となるでしょう。携帯電話のメールも十分に出来ない私ですが、時代に取り残されないよう頑張りたいと思っています。

今年より、愚娘がどうにか入学を許可され後輩として通学していますが、親の願いは、留年することなく6年で無事卒業ができ、歯科医師国家試験に合格し、地域歯科医療に貢献できる歯科医師に成長してくれる事です。

大学の関係者の皆様には、ご迷惑を掛けることが有るかと思いますが、宜しくご指導して頂きますようお願い致します。

大学・父兄後援会から緞帳の寄贈

福岡歯科大学の創立三十周年を記念して福岡歯科大学父兄後援会から、緞帳（どんちょう）が寄贈され、本館9階講堂のステージに設置された。緞帳は、縦2.89m横9m、本学の校章の入ったベルベット仕様の豪華なもので、10月11日、講堂において贈呈式が行われ、堀田謙一郎父兄後援会長から田中理事長に目録が手渡された。



本館講堂に設置された緞帳

福岡県歯科衛生士学校
合同体育大会

福岡県内の歯科衛生士専門学校6校による第26回合同体育大会が、10月20日久留米市の自衛隊駐屯地で開催され、福岡医療短期大学歯科衛生学科の1.2年生が出場した。福岡医療短期大学は総合5位の成績であった。



短大・保健福祉学科施設実習決意式

10月4日、福岡医療短期大学で、同15日より施設実習を行う福岡医療短期大学保健福祉学科1年生54名の決意式が行われた。式では田中理事長の挨拶、栢学長の式辞に引き続き、1年生代表による誓詞、施設別紹介などが行われ、2年生から激励の言葉が贈られた。



誓詞を朗読する1年生代表

戦略性あふれる繊細な治療に喝采と 賛美の声溢れる同窓会主催セミナー

“講師は本学卒業生”

福岡歯科大学同窓会主催第24回臨床セミナーが9月8日、福岡県歯科医師会館5階中ホールで開催されました。一昨年度から、なるべく多くの同窓生がセミナーおよび講演会へ参加できるようにとのコンセプトを掲げ、天神・博多駅周辺での開催や、時代に則した内容“審美補綴・インプラント外科、歯周管理”を中心にテーマを模索しておりました。今回、新たに福岡歯科大学創立30周年を迎え、念願であった臨床歯科学で活躍中の本学同窓生の二人を講師に向かえて開催することが出来ました。午前中に約2時間半の予定で講演された白石先生は9期生、午後約2時間半の予定で講演された大村先生は7期生の新進気鋭の先生方です。臨時の座席を用意した上に、さらに立ち見ができる程に受講者は超満員で、二人の講師も休憩を入れる時間も忘れるほど熱心で、包み隠さず本音で治療概要と計画を説明されました。これぞ同窓会主催臨床セミナーと言える内容であったと確信いたします。公演中は、スライドに映し出される芸術性溢れる治療後の補綴物の美しさに喝采と賛美の声が溢れていたといっても過言ではないでしょう。白石先生は頑固なまでに歯周外科にこだわり部分層弁での切開で良好な治療経過を提示いただき、

歯科矯正専門医との連携、インプラントの応用など、意欲的で人間味溢れる治療を素直に説明いただきました。また大村先生は、治療における硬・軟両組織の調和、特に歯科矯正の応用を基盤に繊細な外科治療、入念な暫間修復物の装着を経て最終補綴物へ至る経過をご説明いただきました。全てが大学時代に習ったことであり特別なことでないと説明されながら、形成や印象、過補償の理論やフェイスボー・トランスファーの実際まで、一人で丹念に積み上げられる手法に高い能力と優れた才能を感じさせざるを得ません。同窓会学術理事を兼務されておられる二人の今後の活躍と、力強い本学同窓生の羽ばたきを実感できた充実の一日となりました。

学術担当常務理事 下田 恒久(7期)



同窓会通信

本学へ「愛」という名の彫刻を寄贈

広報委員会 武井 俊哉(2期)

11月19日、昼、理事長室で宮口会長が田中理事長へ、本学創立三十周年を記念し、記念品として彫刻一点(宮崎 進作「愛」)と寄付金を寄贈した。彫刻家宮崎氏は多摩美術大学名誉教授で、本学2期卒の後藤文雄氏の父文彦氏との古く(戦時中のシベリア抑留)からの親友とのことだ。彼は、この作品をギャラリーや画廊の画商などに小売りすることを望まず、その行き場所にこだわっていたそうである。その矢先、後藤親子から「福岡歯科大学創立三十周年記念品」としての申し出を受け、快諾に至った。

本学本館西側正面玄関の自動ドアが開くと、左斜前方に晩秋の西日を浴びて、「暖かく、優しくそしてどこかたくましく子供を抱く母親」がこちらを向いている。美術に疎い小生でも

その作品名がなんとなくなぜける。

同日、午後1時から本学第105回評議員会が始まった。冒頭、田中理事長は、三十周年記念事業の成果報告と御礼などをされたが、彫刻寄贈についてもいたく感激され評議員に披露されていた。午後2時過ぎ、会議が終わろうとしていた。

田中先生は、また、「正面玄関にありますから、是非、見て帰って下さい。」と熱心だった。宮口会長以下、同窓会関係評議員4名は、笑顔で会議室を後にした。



「愛」(作:宮崎 進)

卒業生トーク

まだ半分?あと半分



広瀬 武尚(4期)

福岡歯科大学は今年30周年を迎えました。ということは、第4期生は卒業して20年経ったこととなります。7月6日、4期生に關係した同窓生に声を掛け、福岡にて20周年の同窓会が開かれました。久しぶりに会った人もいましたが、その顔は懐かしく、学生時代の話や現在までの話、また家族の話などお互いの近況も話しながら、家族も交えたなごやかな会となりました。つぎは30周年かと話していましたが、このように集まって顔を会わせて話することはやはり楽しく、またお互いの励みにもなり、一方で段々年をとってきたので10年後では遅すぎるとの声もあり、今回は5年後にまたこのような会を開こうということになりました。

あと20年くらいは元気に働いているだろうかとの話もできました。とすると、歯医者としてまだ半分あると考えるのか、もう半分しかないと考えるのかでこれからの生き方も大きく変わってくるような気がします。私自身は、歯科大に17年在籍し、平成12年度から福岡医療短期大学の歯科衛生学科にて歯科衛生士の教育を中心とし、歯科大での教育や附属病院での診療を行っています。短大に移って毎年次々と湧いてくる仕事に追い捲られながら、一方では歯科に対して今までと違った視点から眺める事ができるようになってきました。頑張ってきたつもりでしたが、振り返ると何となく仕事に流されてきたようにも思え、短大へ異動した事は色々なことに気付き、考え、前へ進もうとするよい機会になったように思えます。

今年の夏から、大学のテニス部の部長を黒水先生から引き継ぎました。時間的に厳しいカリキュラムの中で頑張っている学生達を、テニスはもとより学業も含めてサポートしていきたいと考えています。歯科界も厳しい状況ではありますが、必ず進むべき道はあるものと考えています。卒業生の皆さんの頑張る姿に勇気づけられながら、自分もやるぞと思う今日この頃です。

卒業して17年、開業して8年目になる。新卒当時と今では随分考え方も変わってきた。開業当初は、夢や希望にあふれ、現実には翻弄され、何年かしてやっと自分の病院のキャパシティーにあった患者数になり、その頃には幾分、経営もプロになった気がしてくる。右も左も分からない状態で開業するのであるから、先輩や材料業者のごく一般的な意見を元に計画を組み立てていく。しかし人口8千人に歯科医院4軒の小さな町では、他医院とは違う何かを打ち出さなければならない。あれやこれやと流されるうち、体調を崩し、仕事もままならなくなってしまった。患者さんの事も気になるが、それよりも経営や家族も大事にしなければならない。それから開き直って思い切って規模を小さくしてやっていこうと考えたのである。4人いた常勤はパート一人にし、現在、嫁さん（元歯科大学の衛生士）と三人で細々と診療している。患者数は一日平均一桁。全体の半数近くが老人である。夏休みですら子供は週に4〜5人しかこない。パノラマもない。デンタルから印象、スケーリング。掃除、時には受付までも自分でやる時がある。予約制で



マイペースで 歯科医院経営

はないので、患者さんがかたまと小さなパニックになる。もうそんなことを6年は続けている。人件費と諸々の経費が削減できればかなり楽になる。それに慣れてくるともう規模を大きくしたいとは思えない。今後は生活にゆとりを持っていきたいと思っている。

私は飲みには行かないので、家族との団欒

佐久間 有良 = 文
text: Ariyoshi Sakuma

写真左=佐久間歯科医院（佐賀県三養基郡）

を大事にする。家族の顔を見ながら酒を飲むのも悪くない。庭でとれた野菜を食べ、エアコンのない古いあばら家で夏を過ごし、冬は寒さに震えながら庭仕事をし、夜々、子供が寝静まったら自分の部屋で音楽を聞きながら趣味のフライフィッシングの毛鉤を巻く。スリルも変化も何もない、単純な生活が流れていだけだが、それも幸せである。3月から9月までは頭のなかを山女魚がライズ（水面で捕食するときの波紋）をくりかえし、釣りのことばかり考え、それを過ぎると、大学のミュージックアソシエーションのOB会やら、クリスマスパーティの演奏依頼やらで急にバンド活動が始まるので、ベースの事ばかり考えるようになる。今回のこのコラムもミュージックアソシエーションのOB会でなにやら酒に紛れて仕組まれたような気がする。うちのような病院は不釣合いだと思うのだが。何も特徴がないので書きようがないのである。私は根っからの仕事人間ではないので、まあこんなことしか書けないのであります。



クリニックからこんにちは。

はじめまして。私は平成10年に卒業し、その後すぐに実家の歯科である北歯科医院に勤務致しました。この当時、私の祖父が院長、父が副院長であり、当初は祖父、父、私と親子3代の歯科医師が在籍していました。（と言っても祖父は診療と言うよりは見回り役でしたが…。現在はもちろん父が院長です。）大先輩でもある父の厳しくもやさしい指導のもと、父の診療アシスタ

から始まって実技訓練を経て、緊張の初診療、などなどを経験し現在に至っています。私の1年後には妹も歯科医師として仲間に加わりました。また、父の考えにより、Perioの船越栄次先生、Endoの森克栄先生、歯科技工士の桑田正博先生など研修会に参加させて頂き、現在臨床治療に大変役に立っており感謝するばかりです。研修で身に付けたものは、父の考え方とは若干異なることもありますが、知識が増えて様々な見方ができる事は良い事だと考えております。この違った見方というのが、父・息子間の微妙な関係を生み出したりするのですが…。ところで、こ



の原稿を書いている現在、実は北歯科医院は11月中休診であります。と言うのも、天神ビルが立った当初からテナントとして入って40数年、診療所の内容が現代に合わなくなって来た為、12月の新規オープンに向けて改装する事になったのです。写真は院内を壊す前、引越し作業のあと皆で撮ったものと、ユニットをはずした直後のものです。皆も良く

動いてくれて感謝しております。仕事以外では音楽活動も大学の時から続いています。先日も

ファミリー・ビジネス

北 訓明 = 文
text: Noriaki Kita

写真上=改装前の北歯科医院
写真下=2列目右端が北 訓明先生



ミュージック・アソシエーションのOB会で短大の教授であり、偉大なベースリストである、升井一期先生と共演させて頂き、今までで初めて自分の演奏について少し誉められて、今現在有頂天であります。卒業してから僅かな経験しかなく、祖父、父が築いてきたものを受け継ぐには今の私には全ての面で役不足です。しかし、生まれたからにはやらねばなりません。やり甲斐はあります。時には息抜きを忘れず頑張るつもりです。ありがとうございました。

第28回 田の歯科祭

「美歯*サンシャイン」

福岡歯科大学学友会学園祭実行委員会主催（福岡医療短期大学学友会協賛）の第28回学園祭（田の歯科祭）が「美歯・サンシャイン」をテーマに10月26日から27日にかけて、福岡歯科大学本館西側駐車場等で開催された。両日とも各クラブ等の模擬店やバンド演奏、クイズ、ビンゴ大会などが催され、近隣を中心に多くの来場者が訪れた。



来場者に配布されたパンフレット



☀ We are 学祭実行委員会メンバー!!

☀ 巨大歯型彫刻・・・「今年も削っちゃう?」

☀ 「無料歯科相談」2日間で50件を超える相談がありました。

☀ ゲストライブ in 食堂 “Stereo” の2人

☀ 部活対抗カラオケ大会

福岡医療短期大学生が老健でボランティア活動

福岡歯科大学のキャンパス内に今年8月オープンした「介護老人保健施設サンシャインシティ」で、11月から福岡医療短期大学保健福祉学科の学生によるボランティア活動が始まった。短大の近くの施設でボランティア活動をしたい、という学生の希望で実現したもので、学生達は週に3～4日、授業が終わると同施設を訪れ、食事の配膳・介助、

口腔ケア等を手伝っている。慣れない手つきながらも、懸命に働く学生のボランティアは入所者にも大変喜ばれており、学生にとっても early exposure（早期臨床体験）の一環として有意義なものとなっている。

同施設では、保健福祉学科の学生に限らず、福岡歯科大学学生や歯科衛生学科学生のボランティア活動も待望している。



食事介助をするボランティア学生

平成15年度入学試験日程

福岡歯科大学			
区分	一般入学試験A日程	センター試験利用入試	一般入学試験B日程
募集人員	約46名	約10名	約10名
願書受付期間	1月6日(月)～1月29日(水)	1月20日(月)～2月12日(水)	2月21日(金)～3月10日(月)
試験日	2月1日(土)	2月17日(月)	3月12日(水)
試験科目	外国語・理科・数学・小論文・面接	センター試験・小論文・面接	外国語・理科・数学・小論文・面接
合格発表日	2月6日(木)	2月20日(木)	3月14日(金)
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学学務課入試係 TEL 092-801-1885(直通) FAX 092-801-0427 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/col ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/colhp E-mail:gakumu@college.fdcnet.ac.jp		

福岡医療短期大学・歯科衛生学科			
区分	一般入学試験A日程	一般入学試験B日程	一般入学試験C日程
募集人員	約30名	約10名	若干名
願書受付期間	1月6日(月)～1月30日(木)	2月10日(月)～2月27日(木)	3月3日(月)～3月17日(月)
試験日	2月2日(日)	3月1日(土)	3月19日(水)
試験科目	英語Ⅰ・小論文・面接	小論文・面接	小論文・面接
合格発表日	2月6日(木)	3月6日(木)	3月20日(木)
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 歯科衛生学科入試係 TEL 092-801-0439(直通) FAX 092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/hyg ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcolhp E-mail:gakumuj@college.fdcnet.ac.jp		

福岡医療短期大学・保健福祉学科				
区分	一般入学試験A日程	一般入学試験B日程	一般入学試験C日程	一般入学試験D日程
募集人員	約10名	若干名	若干名	若干名
願書受付期間	1月6日(月)～1月30日(木)	2月10日(月)～2月27日(木)	3月3日(月)～3月17日(月)	3月20日(木)～3月29日(土)
試験日	2月2日(日)	3月1日(土)	3月19日(水)	3月30日(日)
試験科目	小論文・面接	小論文・面接	小論文・面接	小論文・面接
合格発表日	2月6日(木)	3月6日(木)	3月20日(木)	3月31日(月)
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 保健福祉学科入試係 TEL 092-801-0923(直通) FAX 092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/wel ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcolhp E-mail:gakumuj@college.fdcnet.ac.jp			

特待生・特別奨学生決定

平成14年度第1学年の特待生(福岡歯科大学)及び特別奨学生(福岡医療短期大学)が次のとおり決定した。



本末 知香さん
(福岡歯科大学)



今島 千尋さん
(短大・歯科衛生学科)



中村 みゆきさん
(短大・保健福祉学科)



志渡澤 愛さん
(短大・歯科衛生学科)



藤 昌子さん
(短大・保健福祉学科)



高山 舞子さん
(短大・歯科衛生学科)



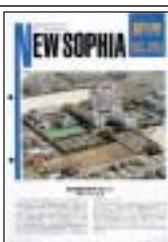
西嶋 杏沙美さん
(短大・保健福祉学科)

臨床研修歯科医・募集要項

平成15年度の福岡歯科大学附属病院の「臨床研修歯科医募集要項」がまとまった。研修は4月25日の開講式でスタートし、専門分野に向けての基礎修練を行う「主診療科」や、総合的な診療研修の「副診療科」、その他「院外研修」や「診断研修」、「臨床セミナー」、「海外研修」等が実施される。一般歯科診療に従事し得る知識と技術だけでなく、高い倫理観と豊かな人間性を兼ね備えた、患者に信頼される臨床歯科医師の育成を目指す。

〈臨床研修歯科医募集要項〉

- 募集人員 80名
- 応募資格 平成9年度～14年度歯科医師国家試験合格者及び平成15年度歯科医師国家試験合格見込者
- 募集期間 平成14年11月1日～平成15年3月31日
- 研修場所 福岡歯科大学附属病院及び従たる施設
- 研修期間 平成15年4月～平成16年3月までの1年間
- 問合せ先 福岡歯科大学附属病院 病院事務課(管理係) TEL092-801-0411(内線356)



NEWSOPHIA 創刊10周年

Sophia(ソフィア)とはギリシャ語で、学問知識のたんなる積み重ねでなく、真実を悟り、ものの本性を真に理解する知恵、または知識をいかに正しく用いるかという、より高貴な英知の

ことをいいます。常に新しい、活気溢れる学園であることをイメージして、福岡歯科学園広報誌「New Sophia」は1993年12月に創刊されました。